



最も安全な選択肢：  
天然ゴム（ラテックス）の使用を回避する

## 合成ゴム製手袋の使用により、患者と医療従事者を天然ゴム(ラテックス)の感作から安全に保ちます

医療の現場では、個人用防護具(PPE)の適切な使用が、医療従事者と患者の両方の交差感染を防止する上で重要な要素です。医療用手袋は、PPEのなかで最も一般的に使用されるアイテムであり、最も重要な感染防止製品の1つです。

手袋は、医療従事者の血液由来病原体への職業性曝露のリスクを軽減し、医療提供者と患者の両方の感染のリスクを軽減するのに役立ちます。

医療の現場で日常的に使用される手袋の多くは天然ゴム(ラテックス)で作られているため、天然ゴム(ラテックス)タンパク質への繰り返しの曝露は、接触性皮膚炎やラテックスアレルギーなどを発症するリスクを高めます。

より安全な方法は、天然ゴム(ラテックス)を原材料として使用していない、合成ゴム製の手袋を使用することです。

### 天然ゴム(ラテックス)製手袋の歴史

ウィリアム・ハルステッド博士は、1890年代後半にゴム手袋の使用を広め、手に存在する細菌から患者を保護し、手術室で使用されている強力な刺激のある消毒液から医療従事者を保護しました。

これらの第1世代の手袋は厚く、再利用可能で、煮沸消毒されていました。

使い捨ての天然ゴム(ラテックス)手袋は1950年代後半に導入され、毎日の手袋の再加工、修理、滅菌の必要性がなくなりました。

未滅菌検査用手袋は、日常の患者のケア中に使用される標準予防策の1つであり、通常は天然ゴム(ラテックス)、ニトリル、ビニール、またはポリクロロブレンでできています。

滅菌済の手術用手袋は通常、天然ゴム(ラテックス)、合成ポリイソブレン、または合成ネオブレンから作られる、手術中の標準的な防護具の一部です。

### 天然ゴム(ラテックス)から合成ゴムへ

ラテックスアレルギーは、重大な医学的関心事です。それは患者だけでなく医療従事者にも影響を及ぼします。

医療従事者の8%から12%は天然ゴム(ラテックス)過敏症であると推定されています。天然ゴム(ラテックス)製手袋や、天然ゴム(ラテックス)を含んだその他の製品にさらされた医療従事者は、アレルギー反応を起こす可能性があります。<sup>\*1</sup>

現在のところ、治療法やワクチンはないため、予防のみがラテックスアレルギーに対する安全対策であるといえます。

予防の目的は2つあります。天然ゴム(ラテックス)に過敏な人の反応を防ぐことと、感作されていない人の初期感作を防ぐことです。現時点で効果的な予防戦略は、天然ゴム(ラテックス)を回避することです。<sup>\*2</sup>

天然ゴム(ラテックス)にアレルギーのある医療従事者や患者は、天然ゴム(ラテックス)製の手袋を使用してはなりません。<sup>\*3</sup>

しかし、他の多くの人は天然ゴム(ラテックス)に対する感受性に気づいていません。

多くの医療施設では、患者ケア領域と手術室における天然ゴム(ラテックス)製品の使用を削減または排除することにより、患者と医療従事者の両方に対するリスクを最小限に抑えようとしています。

合成ゴム製手袋は、既知の天然ゴム(ラテックス)過敏症の人に代替製品を提供し、まだ過敏症でない人の、過敏症を発症するリスクを軽減します。

今こそ、天然ゴム(ラテックス)から一歩踏み出して、合成ゴム製に移行する時なのです。

## 天然ゴム(ラテックス)に関する通説(Myth)と真実(Truth)

通説(Myth)	真実(Truth)
合成ゴム製手袋は、天然ゴム(ラテックス)製手袋よりも着用感が劣る	手袋の素材の選択は、長年にわたって大幅に改善されてきました。これまで、合成ゴム製手袋は、フィット感、感触、快適さが不十分であるため、医療従事者に広く受け入れられていませんでした。現在、手術用手袋メーカーは天然ゴム(ラテックス)のフィット感と感触をほぼ再現する合成素材で手袋を製造することができます。材料技術におけるこれらの進歩の結果として、受容性とパフォーマンスのオプション(フィット感、感触、快適性)の両方が大幅に改善されました。
天然ゴム(ラテックス)に対する反応は軽度である	天然ゴム(ラテックス)製品に過敏な人に起こり得る反応には3つのタイプがあります： <sup>*4</sup> <ul style="list-style-type: none"> <li>・刺激性接触皮膚炎—皮膚(通常は手)に、乾燥したかゆみを伴う炎症を起こします。天然ゴム(ラテックス)製品に対する最も一般的な反応です。</li> <li>・アレルギー性接触皮膚炎—このIV型の免疫反応は、製造過程の中で天然ゴム(ラテックス)に添加された化学物質への曝露から生じます。ツタウルシ皮膚炎と同様の皮膚反応(発疹、水疱)を引き起こす可能性があります。</li> <li>・ラテックスアレルギー(I型(即時型)アレルギー)—これは、天然ゴム(ラテックス)中の植物性タンパク質に対する全身性のIgE抗体を介した反応です。症状は、軽度の皮膚トラブル(皮膚の発赤、蕁麻疹、掻痒感)からアレルギー症状(鼻水、くしゃみ、目のかゆみ)や喘息の症状(呼吸困難、咳嗽、喘鳴など)、場合によってはショック症状まで、さまざまです。</li> </ul>
ラテックスアレルギーは管理が難しく、治療に費用がかかる	医療現場における、ラテックスアレルギーの管理のために重要なことは次のとおりです： <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療従事者の職業性ラテックスアレルギーの予防と治療</li> <li>2. ラテックスアレルギー患者の安全なケア</li> </ol> ラテックスアレルギー治療の要は回避です。天然ゴム(ラテックス)への累積曝露を減らすために、職場での決定を下す必要があります。ラテックスアレルギーによる医療従事者の障害費用を解析したところ、中規模、非営利、非教育機関の病院では、合成ゴム製医療用手袋への転換にあたり、経済的損益が収支均衡するのに必要なアレルギー既往者はわずか1.08人でした。 <sup>*5</sup>
天然ゴム(ラテックス)手袋の使用は増えており、医療業界では天然ゴム(ラテックス)が好まれている	手袋の使用は、天然ゴム(ラテックス)製品から合成ゴム製ソリューションに移行しています。米国では、天然ゴム(ラテックス)手袋の使用率は、2005年から2012年にかけて、特に検査用手袋とパウダー付手術用手袋で90%以上減少しました。ニトリル製、ビニール製の検査用手袋と、ポリイソブレン製手術用手袋の開発により、合成ゴム製手袋の使用量は同時期に2倍以上になりました。 <sup>*6</sup> この移行の主な目的は、天然ゴム(ラテックス)に対するアレルギー反応を経験する医療従事者と患者の両方のリスクを最小限に抑えることです。
ラテックスアレルギーがある人は多くないため、天然ゴム(ラテックス)手袋を使用することの危険性は低い	ラテックスアレルギーを発症する要因は数多くあり、これまで天然ゴム(ラテックス)に対する感受性を示さなかった人でも発症する可能性があります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・以前にいくつかの手術を受けたことがある患者、およびアボカド、バナナ、キウイフルーツに食物アレルギーがある患者は、天然ゴム(ラテックス)に対してアレルギーを起こす可能性が高くなります。<sup>*7</sup></li> <li>・また、医療従事者は天然ゴム(ラテックス)への継続的な曝露のためにアレルギーを起こす可能性が高くなります。<sup>*7</sup></li> <li>・乳児期に外科的介入を受けた患者は、ラテックスアレルギーの発症を予防するために、生後まもなくからラテックスフリーで取り扱われるべきです。<sup>*8</sup></li> <li>・ラテックスアレルギーの臨床症状の発症以前に、症状のない曝露期間が数か月または数年に及ぶことがあります。多くの場合、ラテックスアレルギーに繰り返し曝露されると症状は次第に重くなるため、感作された人はラテックスタンパク質とのさらなる接触を避けることが重要です。<sup>*9</sup></li> </ul>
ラテックスアレルギーは、医療業界では問題とはされていない	AORN(米国周術期看護協会)、AAAAI(米国アレルギー喘息免疫学会)、ACAAI(米国アレルギー・喘息および免疫学会)、OSHA(米国労働安全衛生局)およびNIOSH(米国国立労働安全衛生研究所)は、ラテックスアレルギーの予防に関する推奨事項とガイドラインを公開しています。彼らは、安全な天然ゴム(ラテックス)フリーの環境を実現するために、低アレルギー、パウダーフリーの手袋の使用を推奨し、奨励しています。 <sup>*1 *2 *4 *10 *11</sup>

## 参考文献

- ※1 US Department of Labor. OSHA. Healthcare wide hazards: Latex allergy. Available at:  
<http://www.osha.gov/SLTC/etools/hospital/hazards/latex/latex.html>
- ※2 AORN latex guideline, 2009 Perioperative standards and recommended practices, AORN, Inc.
- ※3 Reddy S. Latex allergy. American Academy of Family Physicians 1998. [www.aafp.org/afp/980101ap/reddy.html](http://www.aafp.org/afp/980101ap/reddy.html)
- ※4 NIOSH. NIOSH Publication No. 97-135: Preventing allergic reactions to natural rubber latex in the workplace. Available at:  
<http://www.cdc.gov/niosh/latexalt.html>
- ※5 Phillips, V.L. et al., Healthcare worker disability due to latex allergy and asthma: A cost analysis. American Journal of Public Health, 1999, 89 (7), 1024-1028.
- ※6 GHX Q4 2012 hospital data.
- ※7 Reischer W. Treating a latex allergy reaction. Outpatient Surgery Magazine, January 2010: 60, 63.
- ※8 Degenhardt P, Golla S, Wahn F, Niggemann B. Latex allergy in pediatric surgery is dependent on repeated operations in the first year of life. Journal of Pediatric Surgery. October 2001; 36(10):1535-1539.
- ※9 About latex allergies. Health and Safety Executive. Available at: <http://www.hse.gov.uk/latex/about.htm>
- ※10 American College of Allergy, Asthma and Immunology, American Academy of Allergy, Asthma and Immunology, "AAAAI and ACAAI joint statement concerning the use of powdered and non-powdered natural rubber latex gloves," Annals of Allergy, Asthma, and Immunology 79 (December 1997) 487.
- ※11 SHIB 01-28-2008: Potential for sensitization and possible allergic reaction to natural rubber latex gloves and other natural rubber products, OSHA.

## お問い合わせ先

カーディナルヘルス株式会社  
Tel : 0120-917-205

